

CitiDISK Combo インストールガイド



アマムレット株式会社

目次

1. はじめに	4
1.1 本書に関する注意事項	4
1.2 安全にお使いいただくために	4
1.3 サポートおよび保証について	5
2. 製品内容	6
2.1 内容物	6
2.2 各製品の特徴	6
2.3 付属品について	6
3. 互換情報	7
3.1 対応機種	7
3.2 対応OS	7
3.3 対応ハードディスク	7
4. ハードウェアセットアップ	8
4.1 ハードディスクドライブの取り付け	8
4.1.2 CitiDISK Combo 2.5 (2.5インチハードディスクドライブ対応)	8
4.1.3 CitiDISK Combo 3.5 (3.5インチドライブ対応)	12
5. CitiDISK Combo を使用する	15
5.1 Windows Me	15
5.1.1 パーティションの設定	15
5.1.2 ドライブのフォーマットとマウント	21
5.1.3 ドライブの取り外し	21
5.2 Windows2000/XP	22
5.2.1 ディスクへの署名	22
5.2.2 パーティションの設定	23
5.2.3 ドライブのフォーマットとマウント	25
5.2.4 ドライブの取り外し	25
5.3 Mac OS 9.x	26
5.3.1 ドライバソフトウェア	26
5.3.2 パーティションの設定	26
5.3.3 ドライブのフォーマットとマウント	28
5.3.4 ドライブの取り外し	28
5.4 Mac OS X	29
5.4.1 パーティションの設定	29
5.4.2 ドライブのフォーマットとマウント	31
5.4.3 ドライブの取り外し	31
6 付録	32
6.1 ユーティリティのインストール	32
6.1.1 ユーティリティのインストール (Windows)	32
6.1.2 ユーティリティのインストール (Mac OS 9.2.x)	34
6.2 Windows ファイルシステム	36
6.2.1 ファイルシステムの種類	36
6.2.2 パーティションのルール	36
6.3 Mac OS 9.x ファイルシステム	36
6.3.1 ファイルシステムの種類	36
6.3.2 パーティションのルール	37
6.4 Mac OS X ファイルシステム	37
6.4.1 ファイルシステムの種類	37
6.4.2 パーティションのルール	37
6.5 仕様	38

6.5.1 CitiDISK Combo 2.5 仕様	38
6.5.2 CitiDISK Combo 3.5 仕様	38

1. はじめに

この度は、CitiDISK Combo をご購入いただき、誠にありがとうございます。製品を正しくお使いいただくため、使用前に必ず本書をお読みください。また、取扱説明書はいつもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

1.1 本書に関する注意事項

本取扱説明書は、製品の都合により、予告無く変更することがございます。また、本書に記載される会社名ならびに商品名は、各社の登録商標となっています。

1.2 安全にお使いいただくために

本書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、以下の絵表示で注意を呼びかけています。その表示と意味は次のようになっています。

< 警告！ >

誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

< 注意！ >

誤った取扱をすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

< 禁止！ >

この表記は、禁止の行為であることを示しています。

< 表記 >

この表記は、行為を規制したり、指示する内容を示しています。「表記」の部分に、具体的な指示内容が示されています。

< 注意！ >

< 電源プラグを抜いてください！ >

次のような異常の場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、サポートセンターか、販売元にご連絡下さい。そのまま使用すると、火災・感電のおそれがあります。

- 1) 機器に発熱、異臭、発煙、異常な音などが認められた時
- 2) 機器内部に液体や金属が入った時
- 3) 機器を落としたり、破損した時

< 電源プラグを抜いてください！ >

機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。移動時にコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷み、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

< 禁止！ >

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！ >

機器の上に重い物を置いたり、乗ったりしないでください。バランスが崩れて落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！ >

機器の上に水などの入った容器または金属物を置かないで下さい。こぼれたり、中に入った場

合、火災・感電の原因となることがあります。
< 禁止！ >

湿気や埃の多い場所、油煙や湯気があたるような場所での使用はさけてください。火災・感電の原因となることがあります。

1.3 サポートおよび保証について

- サポート内容
アミュレット株式会社は、CitiDISK Combo のご購入日から 1 年間、通常の使用のもとで、材質および製造上の物理的不具合がないことを保証します。万一、この期間内に製品に不具合が発見された場合、サポートセンターに連絡して下さい。連絡する際には、必ず保証書をご準備下さい。
- お問い合わせ窓口
製品に関するトラブルが発生した場合には「CitiDISK サポートフォーム」からお問い合わせすることができます。サポートには情報の収集が必要不可欠ですので、できるだけトラブルの具体的な内容を記載して下さい。後ほど、弊社のサポート担当よりご連絡をさせていただきます。

URL : <http://www.amulet.co.jp/CitiDISK/support.html>

動作しないという場合でも、事前の連絡も無く送付された場合には有償修理扱いとなる場合がございますのでご注意ください。

連絡先

アミュレット株式会社 サポートセンター

TEL 03-5295-8418

FAX 03-5295-8424

Email support@amulet.co.jp

< 営業時間 >

平日（月曜日を除く）12:00～18:00

土曜日 11:00～19:00

2. 製品内容

2.1 内容物

- CitiDISK Combo ハードディスクケース
 - CitiDISK Combo 2.5 ... 2.5 インチハードディスクドライブ用
 - CitiDISK Combo 3.5 ... 3.5 インチハードディスクドライブ用
- 取付ネジ
 - CitiDISK Combo 2.5 ... 太ネジ 4 本、ケース用ネジ 4 本
 - CitiDISK Combo 3.5 ... 太ネジ 4 本、ケース用ネジ 2 本
- 接続ケーブル
 - USB ケーブル 1.0m
 - FireWire ケーブル 1.5m
- AC アダプタ
- CD-ROM (Shining Technology 社製)
- CitiDISK Combo インストールガイド(本書)
- 保証書

2.2 各製品の特徴

CitiDISK Combo は、次の特徴をもっています。

- IDE ハードディスクドライブを装着することにより、ポータブルな外付けハードディスク装置としてご利用になれます。
- USB(1.1 または 2.0)と FireWire (IEEE1394) の 2 つのインターフェースを 1 つのケースで利用することができます。
- 余ったハードディスクも有効活用 - ハードディスクをアップグレードした場合、CitiDISK Combo に余ったディスクを入れて使うことができ経済的に外付けストレージを作成できます。
- Windows, Mac OS に対応しています。

2.3 付属品について

- AC アダプタ
CitiDISK Combo には、AC アダプタが標準で添付されています。
 - CitiDISK Combo 2.5 は、USB/FireWire ポートから供給される電源で駆動させることも可能ですが、動作の安定性等の観点から、AC アダプタを装着して駆動させることをお勧めします。
- CD-ROM
CitiDISK Combo OEM 供給元である、Shining Technology 社の CD-ROM が入っています。本書で「CD-ROM」という場合、Shining Technology 社製の CD-ROM を指します。

3. 互換情報

3.1 対応機種

- USB (1.1 または 2.0) インターフェース・ポートもしくは FireWire/IEEE-1394/i.Link インターフェース・ポートを搭載した PC/AT 互換機
 - USB (1.1 または 2.0) インターフェース・ポートもしくは FireWire/IEEE-1394/i.Link インターフェース・ポートを搭載した Apple Macintosh シリーズ
- < i.Link ポートについて >
i.Link ポートはコネクタの形状が異なります。接続させるためには、変換コネクタが必要となります。
- < USB ポートと FireWire ポートの同時使用について >
USB ポートと FireWire ポートを同時に使用することはできません。

3.2 対応 OS

- Windows Millennium Edition (Windows ME)
- Windows 2000/XP
- Mac OS 9.x
- Mac OS 10.x

< サービスパック・バージョン・パッチ >
OS のサービスパック・バージョン・パッチの状況等によって、完全に動作しない場合もあります。

3.3 対応ハードディスク

- PIO/DMA/UDMA 対応の IDE ハードディスクドライブ。
 - CitiDISK Combo 2.5 ... 2.5 インチハードディスクドライブ対応 (12.5mm または 9.5mm 厚)
 - CitiDISK Combo 3.5 ... 3.5 インチハードディスクドライブ対応

4. ハードウェアセットアップ

- < 注意! >
< 電源プラグを抜いてください! >
作業を行う間は、電源プラグを抜いた状態で行ってください。
< 静電気に注意してください! >
作業を行う前に金属に触れるなど、人体に蓄積されている静電気を放電した後に行ってください。静電気により回路破損などが起こる恐れがあります。
< 取り扱いに注意してください! >
作業は細心の注意を払って行ってください。無理な力を加えたり、誤った方向に取り付けたりすると、容易に破損する恐れがあります。

4.1 ハードディスクドライブの取り付け

4.1.2 CitiDISK Combo 2.5 (2.5 インチハードディスクドライブ対応)

1) ハードディスクドライブ(HDD)の小さなピンが出ている側を下にして、ピンの差し込み口に合わせ HDD を置いてください。HDD は上下二段にピンが並んでいます。右端に独立している 4 本のピンがありますが、この 4 本は CitiDISK Combo ハードディスクケースへの接続には直接関係ありません。



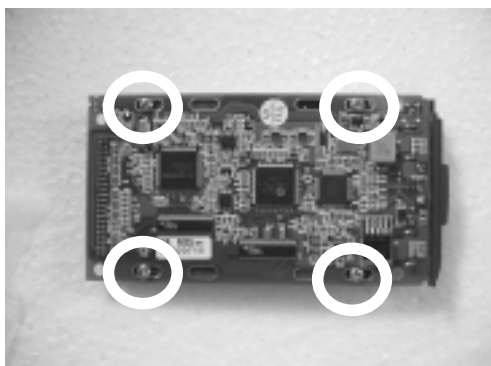
(図 4.1.2-1)

2) 右端の 4 本を除いた部分を CitiDISK Combo の緑色の基盤の横長の黒いコネクタ部に差し込みます。このときにハードディスクのコネクタピンを曲げないように注意しながら、押し込むように接続してください。右端の 4 本は基盤側に差し込むコネクタではありません。



(図 4.1.2-2)

3) ハードディスクをコネクタに差し込んだら、いったんケースから基盤ごと取り外し、付属しているネジでハードディスクを基盤に固定します。太めで短いプラスネジを使用し、緑色の基盤とハードディスクを固定します。ハードディスクのネジ位置はメーカーにより若干異なる場合がありますが、楕円となっておりますので調整することができます。



(図 4.1.2-3)

4) 下側ケースに基盤を戻します。基盤のコネクタ側とケースの切り欠きを合わせてください。



(図 4.1.2-4)

5) 上側ケースを、LEDのはまる部分に気を付けて取り付けてください。



(図 4.1.2-5)

6) 長めのプラスネジ4本でケースの四隅を固定します。



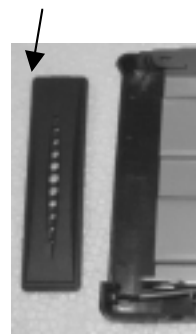
(図 4.1.2-6)

以上で、CitiDISK Combo 2.5 のハードディスク取付は完了です。

4.1.3 CitiDISK Combo 3.5 (3.5 インチドライブ対応)

1) ケースをさかさまにして、下側ケースとプロテクターを取り外します。ハードディスクドライブ(HDD)の IDE コネクタ端子と電源コネクタがある側を上にして、金属トレイの上に HDD を置いてください。

プロテクター



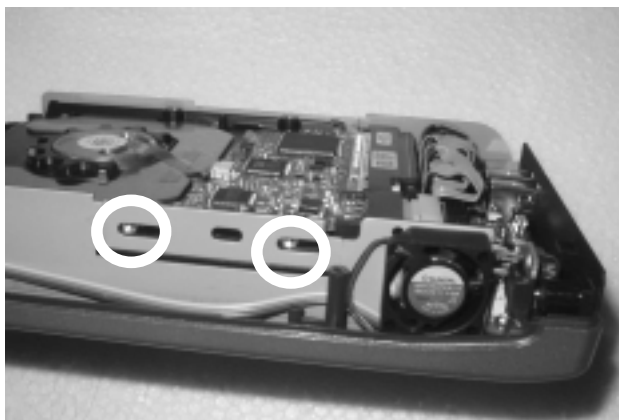
(図 4.1.3-1)

2) IDE ケーブルと電源ケーブルをそれぞれコネクタの向きに注意して差し込みます。

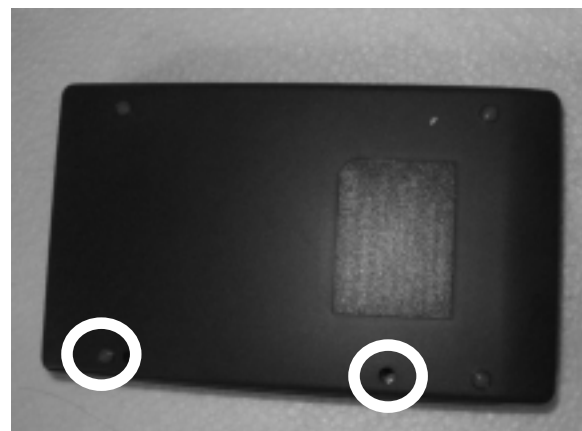


(図 4.1.3-2)

3) HDD と金属トレイの取り付け穴が合致するように HDD の位置を調節し、ネジで固定します。(短いプラスネジを使用、側面 2 ケ所ずつ、計 4 ケ所)



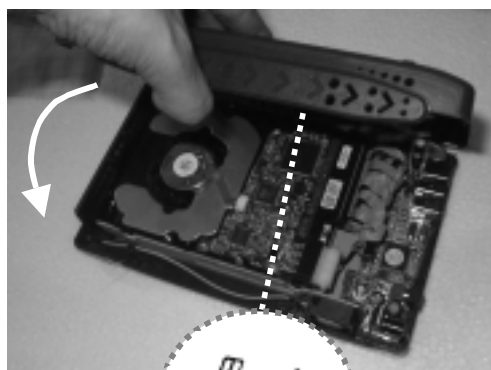
(図 4.1.3-3)



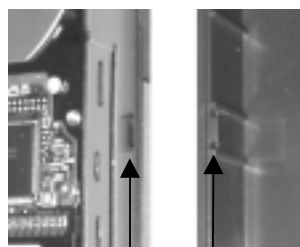
(図 4.1.3-5)

4) プロテクターを戻し、上側ケース中央のガイドに下側ケース中央のツメを合わせ、下側ケースをはめこみます。

以上で、CitiDISK Combo 3.5 のハードディスク取付は完了です。



(図 4.1.3-4)



上側ケースガイド

下側ケースツメ

5) 長めのプラスネジ2本でケースを固定します。

5. CitiDISK Combo を使用する

CitiDISK Combo を使用する前に、ご使用のコンピュータで、USB もしくは FireWire の外部ハードディスクが使用できる状態になっていなければなりません。各 OS 付属のヘルプ等を参考に設定を先に行ってください。

CitiDISK Combo 3.5 には、電源スイッチが付いています。電源スイッチは接続する前にオンにし、オフにする前には、必ず各 OS 指定のやり方でドライブを取り外してください。

CitiDISK Combo 2.5 は、バスパワー駆動が可能となっておりますが、電源の容量不足により、動作不良の原因となる場合もありますので、AC アダプターを接続した状態でお使いになることをお勧めします。

5.1 Windows Me

ファイルシステムの詳細については、「6.2 Windows ファイルシステム」をご参照ください。

5.1.1 パーティションの設定

CitiDISK Combo がオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、オペレーティングシステムが認識する形式でパーティションが作成され、フォーマットされていることが必要です。

すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。パーティションの設定は Windows 標準添付の FDISK で行います。

1) FDISK の起動

MS-DOS プロンプトを開きます。fdisk とタイプして[Enter]を押します。「512MB 以上のディスクがあります」には[Y]を押して、[Enter]を押します。

512MB 以上のディスクがあります。このバージョンの Windows では、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB 以上のドライブを 1 つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、他のオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません (Windows 95 と Windows NT の特定のバージョン、以前のバージョンの Windows と MS-DOS を含む)。また、FAT32 ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N).....? [Y]

(図 5.1.1-1-1)

2) ハードディスクの選択

FDISK のメインメニューが表示されます。「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選択するために[5]を押して[Enter]を押します。

Microsoft Windows Millennium
ハードディスクセットアッププログラム
(C) Copyright Microsoft Corp. 1983 - 2000

FDISK オプション

現在のハードディスク： 1
次のうちからどれかを選んでください：

(図 5.1.1-2-1)

CitiDISK Combo に組み込んだハードディスクが 2 台目のディスクの場合は[2]を押して[Enter]を押してください。2 台目以降のハードディスクドライブが複数台ある場合は、パーティションが設定されておらず(ハードディスクドライブの容量と[空き]の部分に同一の容量が表示されます)、CitiDISK Combo に内蔵したハードディスクドライブと同じ容量が認識されているハードディスクドライブを確認し、その番号を選択してください。

現在のハードディスクドライブの変更

ディスク	Drv	バイト	空き	使用
1		19077		100%
2	C:	19077	38147	%

(1M バイト = 1048576 バイト)

ハードディスクドライブの番号を入力してください(1 - 2).....[2]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください。

(図 5.1.1-2-2)

3) パーティション (領域) の作成

「MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。ここで、パーティションの構によって作業が異なります。一つだけ作る場合は 4)を、2 つ以上に区切るときは 5)を参照してください。

FDISK オプション

現在のハードディスク： 2
次のうちからどれかを選んでください：

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれかを選んでください： [1]

(図 5.1.1-3-1)

4) 基本パーティションを一つだけ作る場合

「1.基本 MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。

```

                MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
現在のハードディスク： 2
次のうちからどれかを選んでください：

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれかを選んでください： [1]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-4-1)

しばらくの間ドライブをチェックした後、「MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか？」と表示されたら、[Y]を押して、[Enter]を押します。

「基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」と表示されたら、最大サイズを割り当ててる場合は[Y][Enter]の順に押して、[ESC]キーで FDISK オプション画面に戻ります。

```

                基本 MS-DOS 領域を作成
現在のハードディスク： 2
基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
(Y/N).....?[Y]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-4-2)

5) パーティションを複数設定する場合 (3) から続く

「1.基本 MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。

基本パーティションの作成

しばらくの間ドライブをチェックした後、「MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか？」と表示されたら、[N]を押します。ハードディスクドライブの総容量が表示され、もう一度ドライブをチェックします。「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB 単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力し、[Enter]を押します。

```

                基本 MS-DOS 領域を作成
現在のハードディスク： 2

領域 状態 種類 ボリュームラベル Mバイト システム 使用
E: 1      PRI DOS                10001 UNKNOWN 26%

基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名が変更または追加されました

続けるには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-5-1)

「基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名が変更または追加されました。」というメッセージが表示されますので、[Esc]キーを押して FDISK オプションの画面まで戻ります。

拡張パーティションの作成

FDISK オプションの画面から、[1]を入力し[MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成]を選択し、[Enter]を押します。

```

                基本 MS-DOS 領域を作成
現在のハードディスク： 2

領域 状態 種類 ボリュームラベル Mバイト システム 使用
E: 1      PRI DOS                10001 UNKNOWN 26%

基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名が変更または追加されました

続けるには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-5-2)

「次のうちどれかを選んでください:」という表示のあとに、選択肢が表示されますので、[2]を入力し「拡張 MS-DOS 領域を作成」を選択し、[Enter]を押します。

```

MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
現在のハードディスク : 2
次のうちからどれかを選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれかを選んでください: [2]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2.-5-3)

しばらくの間ドライブをチェックした後、ハードディスクドライブの総容量と領域に割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB 単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力し、[Enter]を押します。

```

          拡張 MS-DOS 領域を作成
現在のハードディスク : 2

領域 状態 種類   ホリューム   Mバイト   システム   使用
E:1   PRI DOS      10001   UNKNOWN   26%

ディスクの総容量は 38139M バイトです(1M バイト = 1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 28137M バイト ( 74% ) です。

領域のサイズを M バイトか全体に対する割合で(%)入力してください。
拡張 MS-DOS 領域を作ります.....:[28137]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-5-4)

「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。続けるには Esc キーを押してください。」というメッセージが表示されますので、[Esc]キーを押します。

論理ドライブの割り当て

拡張 MS-DOS 領域を作成すると、「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示され、ドライブをチェックした後、論理 MS-DOS 領域の割り当て画面になります。拡張 MS-DOS 領域の容量と論理ドライブに割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合(%)で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量(MB 単位の数字)または割合(数字の後ろに%を付ける)を入力します。

```

          拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

論理ドライブは定義されていません。

拡張 MS-DOS 領域は全部で 28137M バイトです(1M バイト = 1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は 28137M バイトです。( 100% )

論理ドライブのサイズを M バイトか全体に対する割合(%)で入力してください。 [28137]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-5-5)

拡張 MS-DOS 領域の空き容量すべてを割り当てるまで、くり返し論理 MS-DOS 領域の割り当て画面が表示されます。拡張 MS-DOS 領域の空き容量をすべて割り当てず、途中で終了する場合には Esc キーを押して FDISK オプション画面に戻ってください。拡張 MS-DOS 領域のすべての容量に対して論理 MS-DOS 領域が設定されると、[拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています.]というメッセージが表示されますので、[Esc] キーを押して FDISK オプション画面に戻ってください。

```

          拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

Drv   ホリューム   Mバイト   システム   使用
F:    28137   UNKNOWN   100%

拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて
論理ドライブに割り当てられています。
続けるには Esc キーを押してください。

```

(図 5.1.2-5-6)

6) FDISK の終了と再起動

FDISK オプションの画面で[Esc]キーを押して FDISK を終了します。ハードディスク領域の変更があった場合には、「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマットする必要があります。」というメッセージが表示されますので、確認し[Esc]キーを押します。設定したハードディスク上の領域をフォーマットする前に、正しい手順で CitiDISK Combo をパソコン本体から取り外し、Windows を再起動してください。

5.1.2 ドライブのフォーマットとマウント

再起動後、デスクトップ上の[マイコンピュータ]を開いてから、CitiDISK Combo をパソコンへ接続してください。CitiDISK Combo を接続すると[マイコンピュータ]内に領域設定されたドライブのアイコンが表示されます。ドライブのアイコンを右クリックし、[フォーマット]を選択してください。[フォーマット]のウィンドウが開いたら、「フォーマットの種類」の項目の「通常のフォーマット」をチェックし、[開始]ボタンを押します。フォーマットが問題なく終了すればドライブは使用可能です。

5.1.3 ドライブの取り外し

CitiDISK Combo を取り外す前に、タスクバー右端の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして表示されるドライブ一覧から CitiDISK Combo を選択します。確認のダイアログボックスが表示されたら、OK を押してダイアログを閉じてください。これで安全に取り外せるようになります。

5.2 Windows2000/XP

ファイルシステムの詳細については、「6.2 Windows ファイルシステム」をご参照ください。

5.2.1 ディスクへの署名

ディスクをシステムに最初に接続したときに、「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が起動するかもしれません。もし、ウィザードが起動された場合は、「次へ」ボタンをクリックしてください。



(図 5.2.1-1)

ディスク 2(システムによって異なります)をチェックし、「次へ」をクリックします。



(図 5.2.1-2)

「アップグレードするディスクの選択」では、チェックをしないで「次へ」をクリックします。



(図 5.2.1-3)

ウィザードが終了したら、「終了」をクリックしてダイアログを閉じます。

5.2.2 パーティションの設定

Windows に標準で添付されている「ディスクアドミニストレータ」で行います。

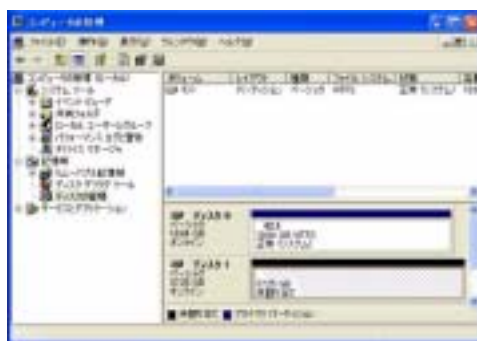
すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) ディスクアドミニストレータを起動

管理者または Administrators グループのメンバーとしてログオンし、スタートメニューから「プログラム」 「管理ツール」 「ディスクアドミニストレータ」を選択します。

2) ハードディスクの選択

CitiDISK Combo に搭載したディスクに該当するドライブが「未割り当て」として表示されます。



(図 5.2.2-2)

3) パーティション作成ウィザードの起動

未割り当ての領域を右クリックし、「パーティションの作成」をクリックします。パーティションの作成ウィザードで「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-3)

4) パーティションの種類を選択

パーティションの種類（プライマリパーティション等）を選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-4)

5) パーティションのサイズを選択

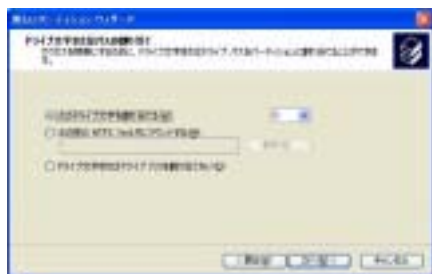
パーティションのサイズを選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-5)

6) ドライブ文字やパスの割り当て

ドライブ文字またはパスの割り当てで「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-6)

5.2.3 ドライブのフォーマットとマウント

1) パーティションのフォーマット

ファイルシステム等の項目を選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.3-1)

2) 作業完了

パーティションの作成ウィザードの完了で設定した内容を確認して「完了」をクリックします。



(図 5.2.3-2)

5.2.4 ドライブの取り外し

CitiDISK Combo を取り外す前に、タスクバー右端の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして表示されるドライブ一覧から CitiDISK Combo を選択します。確認のダイアログボックスが表示されたら、OK を押してダイアログを閉じてください。これで安全に取り外せるようになります。

5.3 Mac OS 9.x

ファイルシステムの詳細については、「6.3 Mac OS 9.x ファイルシステム」をご参照ください。

5.3.1 ドライバソフトウェア

USB 接続で使用する場合、Mac OS 9.x では専用のドライバをインストールする必要があります。以下のサイトからダウンロードしてください。

<http://www.amulet.co.jp/CitiDISK/>

こちらから「ダウンロード」ボタンを押すと、ダウンロードサイトへ飛びます。「CitiDISK Combo Mac OS 9.x ドライバ」をダウンロードして下さい。ダウンロードされたファイルは sit 形式になっています。stuffit 等のユーティリティを使って展開してください。展開されたディレクトリの中にインストーラがありますので、それを起動し、インストールを実行して下さい。

< USB ドライバの場所について >

パッケージに同梱されている CD-ROM メディアには、ドライバは同梱されていないのでご注意ください。

FireWire 接続で使用する場合、Mac OS 9.1 以降ではドライバのインストールは必要ありません。Mac OS 9 から Mac OS 9.04 までは、CD-ROM からドライバをインストールする必要があります。

1) 同梱されている CD-ROM をマウントすると、画面に「Software for Mac v2」という CD が現れます。こちらの CD 中の「Drivers」->「FWIDE」->「MacOS」フォルダの中に「Shining FireWire Strage Driver」というファイルがありますので、システムフォルダにコピーしてください。このファイルは機能拡張ですので、機能拡張フォルダへ割り振られます。

2) 更に「Drivers」->「FWIDE」->「MacOS」フォルダから「ATAManager」をシステムフォルダへコピーして下さい。このファイルは機能拡張ではありませんので、そのままシステムフォルダに置かれます。

5.3.2 パーティションの設定

パーティションの設定には、FireWire、USB 共に、Mac OS に標準添付の「ドライブ設定」は利用できません。パーティションの分割は、Shining Drive Setup を使います。

すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) Shining Drive Setup の起動

同梱されている CD-ROM をマウントすると、画面に「Software for Mac v2」という CD が現れます。こちらの CD 中の「Utilities」フォルダの中に「Shining Drive Setup」というソフトウェアがありますので起動してください。

2) ハードディスクの選択

List of drives というウィンドウが開き、マウントしているドライブが、Interface と Volume name の一覧表がでます。このとき、Interface が FireWire のドライブを選択し、ウィンドウの右下の「Initialize...」というボタンを押してください。



(図 5.3.2-1)

3) パーティションの作成

「Data on the following volumes will be destroyed」(初期化の場合は、以下のボリュームが消失されます)というメッセージが表示され、現在のパーティションが表示されます。初期化する場合は、「initialize」ボタンを押してください。さらに細かくパーティションの設定を分ける場合は、「Custom Setup...」ボタンを押してください。



(図 5.3.2-3)

4) パーティションのサイズの選択

「Custom Setup」では、一番上の「Drive」部分でパーティションの数を選択します。



(図 5.3.2-4)

5) ファイルシステムの種類の選択

分けたパーティションを一つずつ選択します。右側の「Volume Info」でボリュームのタイプと容量を選択します。通常は「Mac OS Extended(Mac OS 拡張)」が選ばれています。容量は数字(単位:メガバイト、ギガバイト、パーセンテージの中から一つを選択)で入力できます。全てのパーティションに対し、ボリューム情報が確定したら「OK」ボタンを押します。3)の画面に戻りますので、そこで「Initialize(初期化)」を押します。

5.3.3 ドライブのフォーマットとマウント

ドライブ設定で、フォーマットも自動的に行われ、ボリューム毎にマウントされます。

5.3.4 ドライブの取り外し

マウントされているハードディスクアイコンをゴミ箱に入れると、マウントが解除されます。その後、CitiDISK Combo を取り外してください。

5.4 Mac OS X

ファイルシステムの詳細については、「6.4 Mac OS X ファイルシステム」をご参照ください。

5.4.1 パーティションの設定

パーティションの設定は、Mac OS X に標準添付の「ディスクユーティリティ」で行います。

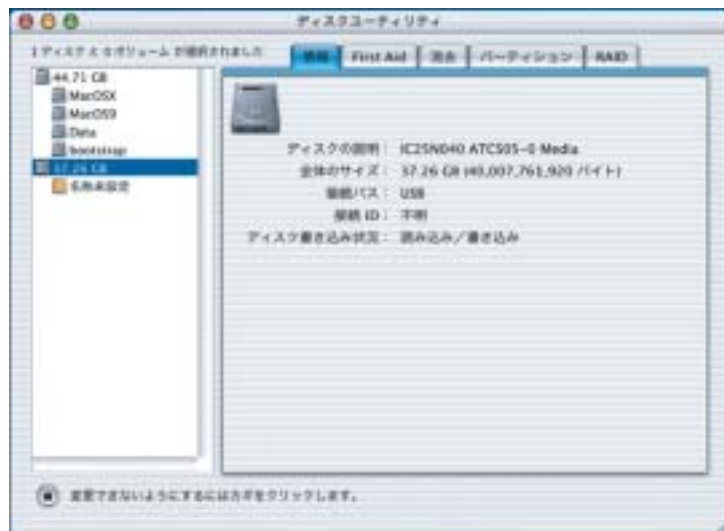
すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) ディスクユーティリティの起動

システムの入ったディスクから「アプリケーション」 「ユーティリティ」を選択し、そのフォルダの中にある「ディスクユーティリティ」を起動してください。

2) ハードディスクの選択

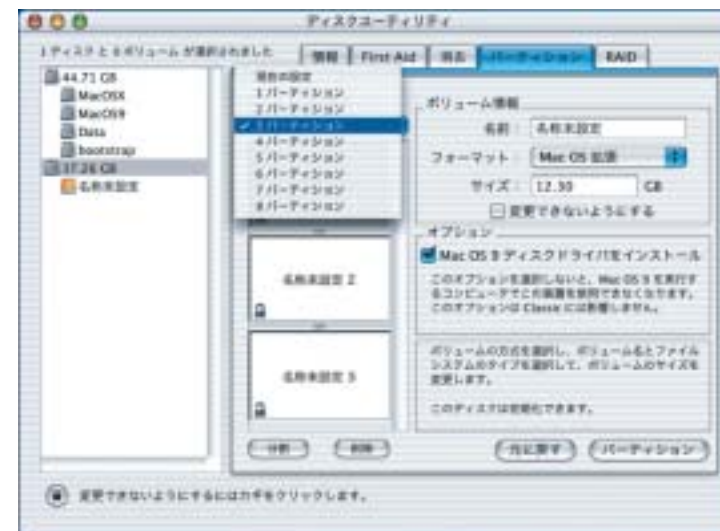
ハードディスクを搭載した CitiDISK Combo をインターフェース・ポートに挿入します。ウィンドウの左側に CitiDISK Combo に搭載されたドライブが表示されますので、それをクリックします。右側のメニューの「情報」をクリックすると、「接続バス」が USB または FireWire であることを確認してください。



(図 5.4.1-2)

3) パーティションの作成

左側のメニューの「パーティション」を選択します。「ボリュームの方式」で、パーティションの数を選択します。現在の設定から変更するには、「現在の設定」メニューバーを押して、パーティションの数を変更します。



(図 5.4.1-3)

4) パーティションのサイズとファイルシステムの選択

それぞれのパーティションを選択し、右上部の「ボリューム情報」で、「名前」「フォーマット」「サイズ」を決定します。フォーマットを選ぶ時、UNIX ファイルシステムは、MacOS 環境ではマウントできないことに注意してください。

5.4.2 ドライブのフォーマットとマウント

全てのパーティションについて、「ボリューム情報」を定義し終えたら、右下の「パーティション」ボタンを押します。一度確認の画面がでできます。そこで更に「パーティション」のボタンを押しますとドライブのフォーマットを開始します。フォーマットが完了するとドライブをマウントします。



(図 5.4.2-1)

5.4.3 ドライブの取り外し

マウントされているハードディスクアイコンをゴミ箱に入れると、マウントが解除されます。その後、CitiDISK Combo を取り外してください。

6 付録

6.1 ユーティリティのインストール

ユーティリティソフトウェアは Windows Me/2000/XP および、Mac OS 9.2.x 用です。その他の OS ではご使用できません。

6.1.1 ユーティリティのインストール (Windows)

ユーティリティソフトウェアをインストールすることで、本機をパソコンからメンテナンスする上で有用な機能が追加されます。ユーティリティソフトウェアの詳細は、CD-ROM 内の「Docs」ディレクトリにあります。(英語)



(図 6.1.1-1)

通常は、CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入した時点で、自動的にインストールプログラムが開始されます。もしインストールプログラムが開始されない場合は、次のステップでインストールプログラムを開始してください。

- 1) CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。Windows のデスクトップから「マイコンピュータ」を開き、CD-ROM ドライブアイコンをダブルクリックします。
- 2) もし、インストールプログラムがまだ実行されなければ、「Setup.exe」をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。
- 3) 「Install Utilities」を選択してユーティリティのインストールをします。簡便なインストールのために、標準の場所へインストールすることをお勧めします。(希望の場所にユーティリティをインストールすることもできます)
- 4) インストール中に、既存のファイルを更新しようとするかもしれません。ファイル置換の確認を求められたときは、常に最新のバージョンを保持するようにしてください。
- 5) インストール完了後に、「Shining Utilities」ショートカットアイコンがデスクトップに作られます。
- 6) ユーティリティをアンインストールする場合は、スタート>設定>コントロールパネル>アプリケーションの追加と削除、から行います。アンインストール完了後は、「Shining Utilities」ショートカットアイコンを手動で削除してください。

「Shining Utilities」ショートカットをダブルクリックすれば、ユーティリティのメインメニューが起動します。



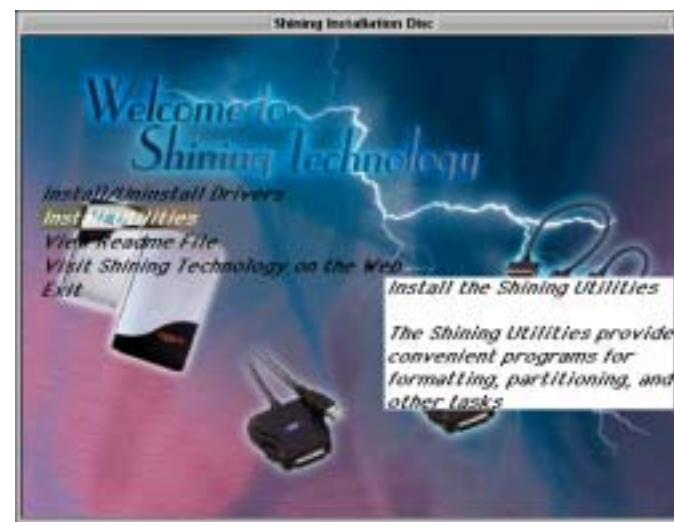
(図 6.1.1-2)

6.1.2 ユーティリティのインストール (Mac OS 9.2.x)

ユーティリティソフトウェアをインストールすることで、本機をパソコンからメンテナンスする上で有用な機能が追加されます。ユーティリティソフトウェアの詳細は、CD-ROM 内の「Docs」ディレクトリにあります。(英語)

通常は、CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入した時点で、自動的にインストールプログラムが開始されます。もしインストールプログラムが開始されない場合は、次のステップでインストールプログラムを開始してください。

- 1) CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入して、CD ドライブアイコンをダブルクリックします。
- 2) もし、インストールプログラムがまだ実行されていない場合は、「Setup」をダブルクリックし、インストールプログラムを起動します。
- 3) 表示される指示に従ってインストールしてください。
- 4) インストール中に、若干の既存ファイルを更新するかもしれません。ファイル置換の確認を求められたときは、常に最新のバージョンを保持するようにしてください。
- 5) ユーティリティのアンインストールは、Shining Utilities フォルダを選択し削除してください。



(図 6.1.2-1)



(図 6.1.2-2)

ユーティリティは、Mac OS 9.x 上でのみ動作します。サードパーティの外部ドライブもサポートします。

6.2 Windows ファイルシステム

6.2.1 ファイルシステムの種類

CitiDISK Combo では以下のフォーマットをサポートしています。

- 16bit FAT
単一のパーティションの最大領域は 2047MB(メガバイト)です。Windows95 以降全てのファイルシステムで利用できます。
- 32bit FAT(FAT32)
単一のパーティションの最大領域は2047GB(ギガバイト)です。WindowsNTを除く、Windows95 OSR2 以降の全てのファイルシステムで利用できます。
- NTFS
Windows NT File System の略。Windows NT, Windows 2000, および Windows XP で利用できます。
- NTFS5
NTFS の上位バージョンで、Windows 2000, および Windows XP で利用できます。Windows2000/XP で「NTFS」という場合には、通常こちらのフォーマットを指します。

6.2.2 パーティションのルール

Windows におけるパーティションには次の 3 種類があります。

- 基本パーティション(プライマリ・パーティション)
PC では、一つのハードディスクを複数のパーティション(領域・区画)に分割して使用できます。このパーティションを基本パーティションといい、最大 4 つの基本パーティションを作成できます。但し、拡張パーティションが存在する場合は最大 3 つまでしか作成できません。作成された基本パーティションを更に複数に分割することはできません。ハードディスクをシステム起動ディスクとして設定する場合、そのハードディスクは 1 つの基本パーティションがあり、アクティブ(起動可能)に設定されなければいけません。このパーティションをアクティブ・パーティションといい、これらの情報は、MBR(Master Boot Record)中のパーティションテーブルに格納されています。起動の必要のないハードディスクは、基本、拡張、論理パーティションの様々な組み合わせでパーティションを作成することができます。但し、Windows95, Windows 98 では、1 台のハードディスクに存在する基本パーティションの数が一つであることを前提としており、複数の基本パーティションがある場合には、アクティブ・パーティションしか、アクセスすることができません。
- 拡張パーティション
PC では、一つのハードディスクに最大 4 つまでの基本パーティションを設定できますが、それ以上のパーティションが必要な場合には、基本パーティションの一つを拡張パーティションとし、その中に複数の論理パーティションを作成することができます。拡張パーティションは、一つのハードディスクの一つしか設定できません。拡張パーティションは、構造的には基本パーティションと同じだが、使われかたが異なるため、基本パーティションと区別しています。
- 論理パーティション (ロジカル・パーティション)
拡張パーティション中に作成されたパーティションを論理パーティションといいます。論理パーティションは、拡張パーティションの中をさらに小さな部分に分割して設定することが可能です。論理パーティションを定義した後は、OS はドライブ名をそれぞれの論理パーティションに割り当てますが、そのドライブを「論理ドライブ」と呼びます。

6.3 Mac OS 9.x ファイルシステム

6.3.1 ファイルシステムの種類

CitiDISK Combo では以下のフォーマットをサポートしています。

- HFS

- 標準パーティション。領域の大きさに 4 ギガバイトの制限があります。
- HFS+
- 拡張されたパーティション。領域の大きさは事実上制限がありません。
- File Exchange
- Windows とコンパチブルなファイルフォーマット。

6.3.2 パーティションのルール

Mac OS では、ハードディスク 1 台につき最大 8 個までのパーティション作成が可能です。

6.4 Mac OS X ファイルシステム

6.4.1 ファイルシステムの種類

CitiDISK Combo では以下のフォーマットをサポートしています。

- HFS
標準パーティション、Mac OS 7.6 からサポートされているパーティションで、領域の大きさに 4 ギガバイトの制限があります。
- HFS+
拡張されたパーティション、Mac OS 8.1 以降からサポートされているパーティションで、領域の大きさは事実上制限がありません。
- UFS
UNIX ファイルシステムパーティション。4.3BSD と互換性を持つパーティションです。このファイルシステム上では Mac OS 環境は動作しません。

6.4.2 パーティションのルール

Mac OS では、1 台につき最大 8 個までの制限がありましたが、Mac OS X では、9 個以上のパーティションを作成することができます。

6.5 仕様

6.5.1 CitiDISK Combo 2.5 仕様

型番	AMU-SHJR256BFWUSB2	
インターフェース	IEEE1394A 2ポート USB1.1/2.0 兼用 1ポート	
転送速度 (理論値)	USB1.1	12Mbps
	USB2.0	480Mbps パースト転送速度最大 22MByte/s
	FireWire	400Mbps パースト転送速度最大 40MByte/s
外部電源	+5V DC / バスパワー対応 (但し、AC アダプタ接続での使用をお勧めします)	
消費電力	7.5W	
動作温度	0 ~ 55	
相対湿度	最大 95%	
保管温度	-22 ~ 65	
サイズ	79mm(W) x 24mm(H) x 137mm(D)	
重量	約 120g(付属品、ハードディスクドライブ含まず)	

6.5.2 CitiDISK Combo 3.5 仕様

型番	AMU-SH35BFWUSB2	
インターフェース	IEEE1394A 2ポート USB1.1/2.0 兼用 1ポート	
転送速度 (理論値)	USB1.1	12Mbps
	USB2.0	480Mbps パースト転送速度最大 22MByte/s
	FireWire	400Mbps パースト転送速度最大 40MByte/s
外部電源	+12V DC	
消費電力	18W	
動作温度	0 ~ 55	
相対湿度	最大 95%	
保管温度	-22 ~ 65	
サイズ	124mm(W) x 39mm(H) x 208(mm)	
重量	約 620g(付属品、ハードディスクドライブ含まず)	